



発行所

日本聖公会 東北教区  
仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nskk-tohoku.com/>

## シリーズ「東北の信徒への手紙」

## 「クリスマスの旅」

司祭 フランシス 長谷川 清純

主の平和が皆さんと共にありますように。

今年私たちは、一堂に会してはご復活日をお祝い出来ませんでした。松丘聖ミカエル教会の主教巡回は、松丘保養園面会自肅要請のため中止となりました。盛岡では仁王幼稚園・牧師館落成式を大々的に開けませんでした。飲食は控えていますから、弘前での堅信式の後でも、青森の牧師任命式の後にも祝会は開けず、どこか物足りなく感じました。主イエスが弟子たちや出会った人たちと親しく食事の席に着くのが大好きだったように、私たちも食をしながら樂しく歓談したいとつくづく思いました。

新型コロナウイルス感染状況に劇的な変化がなければ、来たる降誕日も「東北教区主日礼拝ならびに宣教活動のための指針 No.7」に従い、マスク着用、手指消毒、検温、

ソーシャルディスタンスを徹底し慎重な礼拝を献げ、祝会は控えなればなりません。

そうだからといって、いつものようではないクリスマスである訳ではありません。かえつ



1回目は、人頭税をかけられるため戸籍登録をしなければならないという強いられました。苦痛、屈辱のナザレからベツレヘムへの旅でした。まして身重のマリアの不安の大きさはいかばかりだったでしょうか。それでも、夫ヨセフの故郷に帰省する訳ですから、少しの誇りとわずかな興奮と期待を持った旅でもありました。

そしてそこには、マリアを支えた言葉がありました。「マリア、恐れることはない。」「生まれてくる子は神様の祝福をいただいた、神様に喜ばれる、それこそめんこい神様の子です。」新ししいのちは人知を超えた神秘的な希望なのです。

2回目の旅は、出産後、3人の博士たちがヘロデ王に再会せずに帰国し、王は逆鱗し幼児虐殺を命じるに及んで、

人に、神様は優しく、力強くささやかれます。

イエスの両親ヨセフとマリアは、赤子出産前後2回、旅をしなければなりませんでした。

それは自分たちが計画して、うきうきしながらのものではありませんでした。

旅は出産前と真逆で、見知らぬ土地へ、外国へ、異境の地に逃れて、孤立して生き延びなければならぬものでした。

その心細いこと、大きな不安定さに潰されそうになります。その最中を支える言葉があります。

私があなたを呼ぶまで」です。殺戮、迫害がなくなるその時は必ず来ます。ヘロデ王にも私たちにも語り掛けてくる言葉があります。羊飼いたちが聞かされたものです。「恐れやがて終わりがきます。

私たちの人生の旅の途上で聞け。今日、あなたがたのために救い主・メシアがお生まれになつた。」この言葉を今も私たちは聞きます。

私たちの人生の旅の途上で聞け。今日、あなたにメシアが生まれます。

「主よ、わが心に、宿らせ

たまえ」（聖歌358番）

新型コロナウイルス感染状況に劇的な変化がなければ、来たる降誕日も「東北教区主日礼拝ならびに宣教活動のための指針 No.7」に従い、マスク着用、手指消毒、検温、

そして、そのような苦悩する

（青森聖アンデレ教会 牧師）

開會挨拶

議長

首座主教  
ナタナエル 植松  
誠



## 日本聖公会第65(定期)総会

2020年10月27日(火)～29日(木)  
オンラインにて開催

記局、管区事務所総主事始め  
管区諸役員の方々に深く感謝いたしました。今年2月以来の  
新型コロナウイルス感染症拡大により、今総会は管区事務所と各教区などをオンラインで繋いでリモートで開催しています。そのために管区事務所や各教区で技術的なお世話をしてくださいました。これまでの総会のように、日本聖公会の隅々から議助書記の皆様にも感謝いたしました。

て いる 全 国 の 教 会・聖職・信  
徒 の 皆 様 に も 感 謝 いたし ま す  
前 総 会 か ら 今 日 ま で の 日 本  
聖 公 会 の 歩 み は、 今 総 会 の 諸  
報 告 に 述 べ ら れ て い ま す の で

のようにはできない中、信徒たちはどこまで教会生活に関わるか、また教役者たちはどこまで信徒の牧会ができるか、そして、このような状態がいつまで続くのかという重い課題を私たちは抱えていました。また、このコロナ禍の中教区的にも管区的にもほとんどの活動が制限され、さらには全聖公会的にも、ランベス会議の2年後への延期や、大

行の教区制では、将来的には様々な問題が生じてくることが指摘され、教区統合・再編を含む教区制改革の必要が提議されました。しかし、いずれの場合も「総論賛成各論反対」のようなことで、それ以上の一進展は見られませんでした。ほとんどの教区が、「まだ自力でやつていける」という思いを持つていたことが、この議論がそれ以上進展しなかつたことの原因であつたと

くするというのですか  
の前に、まずは日本聖公会を  
3つの宣教協働区に分けて、  
そこに立てられる協働委員会  
が、自分の教区だけではない  
新たな宣教協働区の運営・宣  
教・牧会について積極的に取  
り組むということ、また、教  
区によつては主教を持たない  
「伝道教区」になつていくと  
いうこと、そして教区の再編  
を促進するということがこの  
議案の趣旨です。

The logo of the Japan Methodist Church, featuring a stylized sunburst or star design with a cross in the center, enclosed within a circular border.

ません。何よりも大きな出来事で、今に至るまで、そして今後も私たちの教会、教会生活に多大な影響を与えていくるのは、今年2月以来の世界規模の新型コロナウイルス感染症拡大です。4月には政府から緊急事態宣言が発令され、外出の自粛、人々が集まる際にはいわゆる3密を避けることが求められ、ほとんどの教区で、礼拝の中止、休止、集会の中止や規模縮小が行われ牧師たちは信徒宅や病院、施設などを訪問することもできなくなりました。結婚式、重篤の信徒の最期の看取りや葬儀、洗礼や堅信式もこれまで

諸教会との協働的なプログラン  
ムができない状況に置かれています。そして、今総会もまさにそのような困難な中で開催されています。その中で日本聖公会の福音宣教はどのようにしていくのか、それは今の私たちの最重要課題でもあると思います。

さて、今総会では日本聖公会法規一部改正として、「宣教協働区・伝道教区制」に関する議案が出されています。「教区制の改革」については日本聖公会でも過去何回かにわたりたってそのための特別委員会が設置され、検討されてきました。そして、その結果、現

協議会以降、日本聖公会の現状と将来的展望について協議を重ねてきました。そしてその中でも、ここ数年、重点的にこの教区制改革について協議してきました。「まだまだ大丈夫……」と思つてきた諸問題が、どの教区でも数年先には現実となつていくことが明白だという危機感と緊張感を主教会は共有しています。今総会で主教会から提案される「宣教協働区・伝道教区制」はこれまでの日本聖公会のあり方を大きく変えようという議案です。将来的には11ある教区を再編してその数を少な

四三

思います。

このような議案に対する議員・代議員の思いは様々でしょう。急過ぎるという戸惑い、議案の内容に不安や恐れもあるでしょうし、反対といふ方もあると思います。確かにこの議案が将来的な問題をすべて解決するものではないことは明らかですし、今後の進展の中でもさらに修正や変更をしていくことも必要です。そのことも考慮しながら、日本聖公会の現状と将来と共に考えたいと思います。

この総会では、「日本聖公会宣教協議会開催および実行委員会設置の件」についても審議されます。これは2012年9月、静岡県浜名湖畔で開かれた宣教協議会で、10年後に再度宣教協議会を開くという提案がされたことに基づきます。10年間の宣教・牧会の果実を持ち寄ろうということですが、この8年間、私たちは様々な課題や挑戦を与えられました。「原発のない世界を求める国際協議会」を開催したり、最近では、この2ヶ月以来の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う教会生活へのかつてなかつたような大き

な影響などがあります。コロナ禍はこれからも続くと思われますが、教会の信仰共同体のあり方、礼拝、牧会、奉仕、教育、福祉、社会との関わりなど、私たちの宣教の大きな課題として私たちは取り組んでいく必要があります。先に述べた「宣教協働区・伝道教区制」に関して、日本聖公会の組織の問題以上に、最も重要な「福音宣教」の観点から、大いに議論をしなくてはなりません。「宣教」は教会の使命です。宣教しない教会は教会ではありません。2012年の宣教協議会では、信徒の減少・高齢化、聖職者の不足、教会建物の老朽化、財政の逼迫などの諸問題が挙げられました。それらの状況は現在もう提案がされたことに基づきます。10年間の宣教・牧会の結果を持ち寄ろうということになりましたが、この8年間、私たちは様々な課題や挑戦を与えられました。「原発のない世界を求める国際協議会」とは何か。そこで私たちは今、どのような宣教をしているのか、今、この時代、それぞれの現場で、主イエスから与えられた宣教の使命をどのように捉え、どのように自分を献身していく

かは、宣教協議会を待つまでもなく、今から自分の課題として、教会の課題として、それぞれが思いを深めていかなければなりません。

私は今総会をもって、7期14年にわたる首座主教の任を終えます。また、次期定期総会前に定年を迎える私にとって、これが最後の総会となります。そのような立場で、私が今考へている私たち日本聖公会に与えられている使命と祝福について最後に申し上げたいと思います。

昨年5月、仙台で開かれた「原発の無い世界を求める国際協議会」の最中、海外からのゲストの方々と何度も話しあう機会がありました。その中で、何人から、日本聖公会にとって、この協議会はどういう意味があるのかということを問われました。別会議の言葉で言うならば、日本聖公会の福音宣教の中で、この会議の位置づけ、また、この会議を通じて、日本聖公会は日本国内で、また世界の聖公会に何を伝えようとしているのかということでした。その方々が、本国に帰つて報告す

る時に、単にこの協議会のことだけではなく、その背景となる日本聖公会の宣教の精神、神学のようなことも伝えられるようにということだつたと思います。また、このような会議に参加する度に、人々から聞かれたことでした。

どうして原発の問題が日本聖公会の中で取り上げられてゐるのか。私はそれに対して、この問題は日本聖公会の福音宣教理解の中で当然取り組まざるを得なかつたと話しました。

それは1995年の山梨県清里での宣教協議会にまで遡ります。戦後50年を迎えた日本聖公会が、それまでの過去を振り返り、反省と悔い改めに立つて、日本聖公会の戦争責任を告白しました。そして、翌年の総会においては、それに基づいた「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」が採択されました。この時の宣教協議会での協議の内容や総会での宣言が、日本聖公会の隅々にまで伝えられ、皆でそれを共有できたかというと、決してそのようにはならなかつたというのが眞実であつたと思います。そのために、2012年9月に開かれた日本聖公会宣教協議会では、再度、そこに脚光を当てて、今度、私たちの日本聖公会として、何をどのように宣教するかが真剣に話し合われたのではないかつたでしょうか。

1995年の宣教協議会、また2012年の宣教協議会を経て、その後の宣教の「成果」については、いろいろな考え方や評価はあると思います。しかし、私がこの14年間、首座主教として、海外の諸教会、また国内の諸教派・諸宗教と関わってきた中で、日本聖公会の宣教の根底には、いつもこれらの宣教協議会での理念が息づいていたと思います。それは、「私たちを平和の器にしてください」ということと、私たちが、「社会の中で差別されている人たち、小さく弱くされている人たち、周辺化された人たちと共に歩む」ということでした。日本聖公会の平和を求める活動、日韓の問題、沖縄の問題、部族差別問題、原発の問題、様々な人権問題への取り組み、ま

た自然災害時の被災者支援活動、例えば東日本大震災における「いつしょに歩こう！」プロジェクトなどへの取り組み、更には新しい聖歌集や祈祷書の改正なども、この基盤に立ってきたのだと私は思っています。そして、また、そのような理念を生きるために、私たちは教会の礼拝、信仰生活、奉仕、学びについても様々な試みを続けてきたのだと思います。

1995年宣教協議会以降、このような日本聖公会の宣教の理念と活動は、海外でも高く評価されてきました。日本聖公会は世界でも小さな管区ではありますが、世界の聖公会に寄与してきたことは大きかったと私は信じています。

これから日本の日本聖公会の福音宣教を考える時、これまでの私たちの歩みの中で気づかれてきたこと、学んできたこと、取り組んできたことが主の豊かなお導きとみ守り、そして祝福の中にあったことを、今、改めて思います。

これまで、首座主教のためには、いつも祈り支えてきてくださった皆様に心から感謝申

し上げます。

聖書の中に「歩く」という言葉がたくさん出でます。歩くというこの単純であります。それは地面を両足で踏みしめて立っているところからバランスを崩して一步を踏み出すことです。この不安定な動作をするによって私たちは前に進めます。神はアブラハムにもモーセにも、占星術の学者たちにも、パウロにも、そして、昔日本にやつてきた海外からの宣教師たちにも「歩け」とお命じになります。今いる安住の地から、敢えてバランスを崩して歩み出せとおっしゃるのであります。故意にバランスを崩すことで、しかもその前途には砂漠や危険、窮屈、迫害などが待ち構えています。そこには心配や不安、恐怖もあるでしょう。しかし、勇気を振り絞つて一步を踏み出していった聖書の中の偉人たちに、そして私たちの先達たちに、主のお導きと祝福が注がれたことも、私たちを知っているはずです。

共にある信仰の世界です。そこに私たちは招き入れられているのです。この日本聖公会総会が主の

ご榮光を表すものとなります。ように。またこれから日本聖公会の上に、主の祝福をお祈りいたします。

## 日本聖公会第65(定期)総会報告

聖職代議員 司祭 ステパン 越山 哲也

日本聖公会第65(定期)総会は、10月27日(火)から29日(木)まで、新型コロナウイルス感染拡大のため、東京全教区12会場をオンラインで

祷書に、「天皇のため」、「皇室のため」の祈りを加える件が議論の末、反対多数で否決され、それ以外の議案はすべて可決されました。

上程された議案からいくつか主な議案についてご紹介いたします。

第10号議案 日本聖公会法規の一部を改正する件(宣教協働区・伝道教区設置)  
主教會より提出された「宣

第9号議案「聖書協会共同訳」の認許および「日本聖公会法規」の一部を改正する件

日本聖書協会発行の2018年版『聖書』聖書協会共同訳(旧約聖書続編つき)を、

日本聖公会の公祷、聖誓およびその他の諸式において用い

るためには総会の決議が必要なため、今総会に提案、認許が求められ全員賛成で可決されました。2020年の降臨節より、主日礼拝の日課として用いられるように整えてい

長谷川清純司祭、越山哲也司祭、信徒代議員 赤坂有司氏、畠山秀文氏の5名が仙台の教区主教座聖堂・ビンステッド主教記念ホールに集まつて総会に出席しました。

開会聖餐式が各会場ごとに挙げられた後、儀礼議案の決議、議長の植松誠首座主教の開会挨拶(メッセージ)などがあり、続いて諸報告が承認され、議案審議に入りました。

これまで、首座主教のためには、いつも祈り支えてきてくださった皆様に心から感謝申



り、協働委員会とともに伝道教区内の運営、宣教・牧会などについて協働を推進し、5年以内（延長可）に教区の再編をすることを検討する」という条項からなっています。約3時間にわたる議論の末、原案に修正・加筆することなく原案通り賛成多数（反対票もあり）で可決されました。この件については後日、詳細に吉田主教様よりお知らせがあると思います。

この議案の提案理由の中に次のような一文がありますのでご紹介いたします。

「本議案が提起する歴史的とも言える決断は、今後様々なレベルにおける具体的かつ丁寧な協議の積み重ねを必要としている。そしてその議論の中には、より幅広い信徒の奉仕職の在りようの模索が含まれるだろう。今や私たちは、この時を主が与え給うた時と捉え、困難な経験へと共に踏み出す事を求められている。

それは、私たちにとって挑戦的な創造的な旅の始まりとなるだろう。教会は、日本聖公会が日本社会における責任ある福音宣教を、今後も継続



的・発展的に担い得る器であり続けるために、この議案を提出する。」とあります。私はこの内容をこれから常に心に覚えて歩んでいこうと思っています。

**第14号議案 日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」声明に賛同する件**

昨年2019年5月に仙台において、「原発のない世界を求める国際協議会」が開催されました。協議会で採択された「原発のない世界を求める国際協議会」声明をうけて、日本聖公会が脱原発と自然エネルギーへの転換を目指すために、今総会でも賛同をする

ことが提案され、全員賛成で可決されました。

**第15号議案 「原発のない世界を求める週間」設置の件**

2022年までの毎年、「地球環境のために祈る日」（世界環境デー6月5日直近の主日）から始まる1週間を「原発のない世界を求める週間」とすることが正義と平和委員会と東北教区の代議員4名の連名で提出され、全員賛成で可決されました。

首座主教選挙では、ルカ武藤謙一主教（九州教区）が選出されました。首座主教は定期総会ごとに選挙で選出するのですが、7期14年の長きにわたり首座主教の任を務められた植松誠主教に心よりの感謝を申し上げます。そして新しく首座主教に就任された武藤主教の上に神様からの大きな恵みが豊かに注がれますように祈ります。皆さまも代替で私たちの教区主教ヨハネと首座主教ルカのためにお祈りいたしましよう。

また、常議員（日本聖公会責任役員・新しく選出された武藤謙一首座主教は代表役員）選挙では、主教議員とし

て吉田雅人主教（東北）、高道）、土井宏純司祭（中部）、大岡佐代子司祭（京都）、聖職議員として大町信也司祭（北海道）、池住圭氏（中部）、村井外キ協事務局次長、他）を講師にお迎えして「コロナ危機」でさらに排除される人々（移民・難民支援基金から見えてくる現状と課題」と題してお話を伺いました。

主教會指名で矢萩新一司祭（京都教区）が再任され、總主事4期目となります。また、管区事務所總主事は、東北教区の関係では、新たに渡部拓司祭が年金委員として選任され、管区審判廷審判員として、小貫晃義氏（米沢聖ヨハネ教会）が指名されました。

総会での報告や議案の詳細については、今後発行される決議録をご覧ください。

最後になりましたがオンラインという日本聖公会史上初めての定期総会が無事に行うことが出来たのは書記局、そして各教区の補助書記の皆さまのおかげです。心より御礼申し上げます。

子どもたちは日々の園生活  
安心、そして希望をもたらします。



私がキリスト教の園を選んだ理由は、その保育理念に共感したからです。キリスト教精神に基づいた保育は、一人ひとりをかけがえのない存在であると考えます。「いつでも、どんなあなたでも愛されています」という思いは、大きな愛で子どもたちを包み、自信と安心、そして希望をもたらします。

導いてくださった神さまに、心から感謝いたします。

初めに、未熟な私を保育者として若松聖愛幼稚園に

若松聖愛幼稚園  
教諭  
**高橋 日向**



どうの木のたとえ話」をするにあたり、事前に園長から教職員に向けて話がありました。『わたしはぶどうの木、あなたは毎日の保育者に向いていました。保育者に向けた話題は「失敗しないのではないかと自問を重ねることも少なからずあつた

日々に、この言葉は「失敗してもいいからまずやってみよう」「きっと大丈夫」と自分を肯定し、前向きな気持ちで取り組むことができる力となりました。

このように、礼拝のみならず保育のさまざまな機会を通して神さまの愛に触れることは、大人や子どもも関係なく心が満たされ、勇気や希望が湧き出てくるように感じます。

あらためて、保育者とは子どもたちがたたかうの枝である」といって、神さまはおっしゃいました。誰にでも淋しさや無力を感じた経験があると思います。子どもたちもそうでした。そんなとき、私たちは決して一人ではないこと、イエスさまという誰よりも強く、大きく、優しい方といつも繋がっているという確信がどれほど力になることでしょう。

私がキリスト教の園を選んだ理由は、その保育理念に共感したからです。キリスト教精神に基づいた保育は、一人ひとりをかけがえのない存在であると考えます。「いつでも、どんなあなたでも愛されています」という思いは、大きな愛で子どもたちを包み、自信と安心、そして希望をもたらします。

**礼拝堂探検隊**  
礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。  
(第13回 クワイアー②)

「Choir」は、もともとは共同体の構成員(修道士や聖職団)が二つに別れて向かい合わせに座っていました。そこで詩編を交互に唱えたり(そのことを共唱すると言う)、朝夕の礼拝やミサが行われたのです。そこは日々の礼拝の場であり、共同体全体が「聖歌隊・クワイア」であります。写真是カンバリー大聖堂のクワイアですが、ここではQuireと綴ります。

中世では共唱席に着席順序があり、後列に上位者が座りました。また祭壇に向かって右側の会衆席よりの位置が共同体の長や司式者の席で、反対側は次席者の席でした。ですから現在の教会で司式者や補式者、聖歌隊がそこに位置するのは、伝統的な「共唱席・クワイアーQuire」の用い方となります。



(教区主教)

現在における「共唱席」の意味は何でしょうか。私は「共に一心を合わせて一唱える」、聖歌隊も、会衆も、それが礼拝における役割を果たしながら、共に心を合わせ、心を神様に向けて、祈りを獻げ唱える者でありたいと思いま

す。

しかし、スクリーン(壁)で会衆席と聖歌隊席を区切る隊を専門化することによつて、会衆と聖職団を分断し、聖歌隊を専門化することによつて、会衆が礼拝に参加するこ

(ミサ)の観客にしてしまつたのです。

この喜びを分かち合える保育者になれるよう努力していく

たいと思います。

学校の友だちの池田甘露さんも洗礼・堅信を受けることにになり、少し不安がほぐれました。堅信を受ける前に、4、5回勉強をしました。教会問答など、いろいろ勉強した中でも、私は「教会は、イエス様を信じる人の集まりです。」ということがいちばん心に残っています。教会は建物でなく、イエス様を信じる人の集まりだということをおどろきくて、温かかったです。新型コロナウイルス感染症の影響で、教父母の方々にはお会いすることができませんでしたが、またの機会にお会いでなければいいなと思いました。

礼拝終了後、祈祷書をいたしました。以前、勉強で「祈禱書は、適当にそこらへんに置いておいてくださいね」と司祭さんに言われました。

私は「今年の聖ルカ祭で堅信を受けたい」と、お父さん（司祭さん）に言いました。理由は6年生になつたから、受けてみようかなと思つたからです。自分が受けるのかなと思つて、いにげ、日曜

「堅信を受けて」

エヌテル 越山 碧



左 池田さん、右 越山さん

「ちゃんも一緒に」と言われました。あおいさんはすでに洗礼を受けていて、今度堅信を受けようと準備していたみたいです。私は「はい！受けたいです。私は『はい！受けます』」と言いました。

毎週日曜学校のあとに、勉強会をしました。教名候補はクララ、ルキーナ、ルチア、どれも意味はてきて、すごく悩みましたが、私に似合う

「洗礼・堅信を受けて！」  
ルチア 池田 甘露

みんなにお祝いしていただ  
いて、すごくうれしかったで  
す。

ペールをかぶつて、気分は花よめさんでした。十字を切るのを忘れましたが、初ばいさんの時のパンはウエハースみたいでおいしかったです。コロナの中なので、ぶどう酒を飲むことはできませんでしたが、すごく一生の中で一番緊張したと思います。

洗礼・堅信の当日がきました。心臓がドキドキし、本当に止まりませんでした。一気に三、四十人の日線が集まり、おでこに十字のしるしの水をかけられ、前髪がぐちやぐちやになりました。堅信は

協議事項

第103（定期）教区会につ

用途指定の遺贈金受け入れ  
に伴う常置委員会・財政主事  
からの追認議案提出の可否に  
ついて、2021年度収支予  
算案らびに預り金修正議案に  
關する

算案れよひ分担金修正議案について協議。主教座聖堂参事

会計検査委員を選任。収益事業運営規則の一部改正案を承認。

三

常置委員会報告  
11/13 開催

動靜報告。また日本聖公会

動靜報告。また日本聖公会  
第65(定期)総会決議事項お

よび管区及び教区内の諸状況  
への対応についての報告。

## ■ 諸問事項

2021年4月1日付の人事異動について。審議の結果

これを適当とし11月20日付で  
公示する旨を答申した。

## ■主事会議関連報告

